

緊急 トップインタビュー

コッペ (仙台市)

代表 飯嶋 茂さん(56)

社会に暗い影を落とすコロナ禍に、どう立ち向かうか。今回は30年以上、障害者と共にクッキーとパンを作り続けてきた就労施設「コッペ」(仙台市)代表の飯嶋茂さん(56)です。

◇

一現状をどう見ますか。

感染者を悪者のように非難したり、ケアに当たる医療従事者を危険物扱いしたり、差別意識の強まりに危機感を覚えます。これは障害者が受けてきた差別と同じ。人々の心がすさみ、異質なものを排除したり、さげすんだりする風潮が強まっているか。一人一人の注意が必要です。

一クッキーとパンの製造は続けています。

食品を提供し続ける使命、売り上げを確保して施設を維持するという現実に加え、20人の利用者に通う場を提供し続けるという側面もあります。施設を閉じた場合、利用者のケアを担

働く弱者にも配慮求める



える人が身近にいるとは限らないのです。1988年の開所以来、食品を扱ってきたため衛生面は徹底して注意してきました。だから施設での感染リスクは小さいと思っていますが、それでも悩みながらです。

一売り上げは。

大きな比重を占めるイベントでの出張販売がなくなり、全体では半減。それはそのまま利用者の工賃(給金)減につながるだけに深

新型コロナウイルス

ともに
乗り越えよう

刻です。「働く」という意味では障害者も一緒なのに、現状は行政による給与保証などの救済対象外です。社会のゆがみを弱者にしわ寄せしないよう、きめ細かな配慮を求めたいです。

一願いは。

どの事業者も大変だから無理は言えませんが、うちの施設に限らず障害者が懸命に丁寧に作った産品を購入の選択肢に少しでも入れてもらえたらと思います。

information

パンとクッキーは1000円以上の購入で仙台市とその近郊に配達する。遠方には宅配便で送る(送料別途)。他の障害者施設と連携し、「福の市」と銘打った露天販売会も随時実施している。開催予定などの問い合わせ先はコッペ022(299)1279。

企画・制作/河北新報社営業局